

東輝・詳徳中学校ブロック適正化実施計画(最終案)

趣旨

少子化等に伴って小規模の小中学校が増加し、一方、中心市街地に近接する地区では、住宅開発により児童生徒数が急増し大規模化している学校も見られます。教育上・学校運営上それぞれにメリット・デメリットがありますが、児童生徒が健やかに成長していくためには望ましい学習・集団活動を形成し、より良い教育環境の下に魅力ある学校づくりを進めていく必要があります。

また、子どもたちは、地域コミュニティの中でさまざまな年齢や立場の人と触れ合い、社会経験を積み重ねるとともに公共性を培っていき、社会に適応していくために必要な知恵を身に付けていきます。

東輝・詳徳中学校ブロック適正化実施計画では、そうした地域コミュニティの中核施設としての役割も担う学校づくりとともに、子どもたちのより良い教育環境の視点に立って、亀岡市教育振興基本計画の「ともに学び ともに育ち ともに生きる 亀岡教育の創造」を基本理念とする教育活動を効果的に行えるよう実施するものです。

具体方策

- 安詳小学校区の一部を詳徳小学校区とつつじヶ丘小学校区に見直すことで、安詳小の過密状態を緩和し、詳徳小の複数学級を維持する。
- つつじヶ丘小学校区の一部を南つつじヶ丘小学校区に見直すことで、つつじヶ丘小の過密状態を緩和し、南つつじヶ丘小の複数学級を維持する。
- 上記の見直しに合わせて、東輝中学校区(亀岡中学校区)と詳徳中学校区を見直すことで、両中学校ブロックの1中2小を実現し、小中一貫教育をさらに推進する。

実施時期

平成32年4月から

対象地域

裏面の「対象地域」のとおり。

※亀岡地区東部地域については、調整中。

実施方法

〔小学校〕

- ・原則、新1年生から新6年生まで全て移行する。
- ・平成32年度に限り、新5年生と新6年生は従来校も選択できる。
- ・兄弟が従来校を選択しても、原則、新1年生から新4年生までに特例は認めない。

※ 開始年度(平成32年度)に新5年生、新6年生になる児童は、前年度(平成31年度)の7月頃に学校を通じて、従前の小学校か校区再編後の小学校かを保護者の皆様に意向確認の案内を行い、平成31年9月には御回答いただきたいと考えています。

〔中学校〕

- ・新1年生から順次移行する。
- ・平成32年度に限り、従来校に兄弟が通学している生徒のみ従来校も選択できる。

※ 開始年度(平成32年度)に新1年生となる生徒のうち、東輝中学校の2・3年生に兄弟が通学する生徒は、前年度(平成31年度)の7月頃に小学校を通じて、東輝中学校か詳徳中学校かを保護者の皆様に意向確認の案内を行い、平成31年9月には御回答いただきたいと考えています。

学用品等について

学校が変わっても、これまでの物を引き続き使用できるように学校とは相談しております。また、学校を変わる児童については、できる限り新しい小学校の学用品等を市で準備できるよう考えています。

通学路について

別紙、通学路(案)のとおり

今後の取組について

平成32年度までの2年間に、学校や関係機関と連携しながら、児童生徒や保護者の不安や負担を軽減できるよう取り組みを進めます。

〔通学路整備〕

保護者の皆様や学校等の意見も聞きながら、出来る限り手立てが必要な箇所について、ソフト、ハードの両面から対策を進めていきたいと考えています。

〔児童の不安軽減〕

- ・学校交流

学校を移っていただく児童が不安なく新しい学校に移っていただけるよう、学校と相談して学校間での交流活動を実施するなど、子どもたちがお互いを知りあう時間をできるだけもてるよう考えていきます。
- ・学級編成時の配慮

学校を移っていただいた児童が、学級編成によって分かれることにより不安になるような状況が起きる場合には、クラス内で一定数集めるなど状況に応じた対応をして参ります。
- ・先生の配置

児童の不安感に配慮した先生の配置を考えていきます。
- ・スクールカウンセラーの配置

児童の心のケアや支援を行うため、スクールカウンセラーを配置しております。現在、安詳小学校には既に配置しておりますが、未配置の学校にも京都府教育委員会へ配置の働きかけを行うなど努めて参ります。

見直し後の児童生徒数

現行どおり

中学校	生徒数		小学校	児童数	
	H29 (実数)	H35 (推計)		H29 (実数)	H35 (推計)
詳徳	305	297	詳徳	244	193
			安詳	923	834
東輝	681	767	南つつじヶ丘	373	249
亀岡	554	(80)	つつじヶ丘	725	594

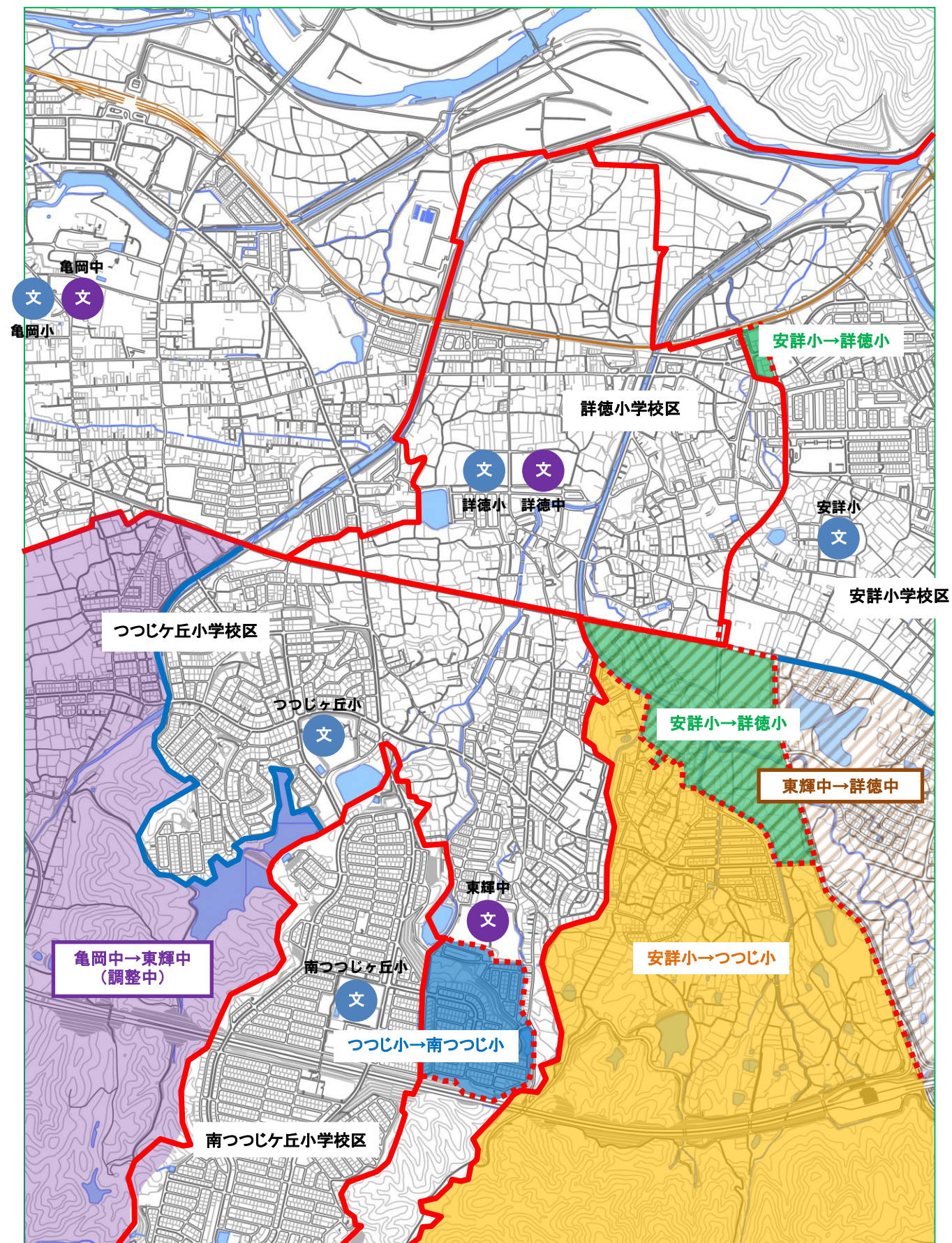
見直し後

適正規模 360~540

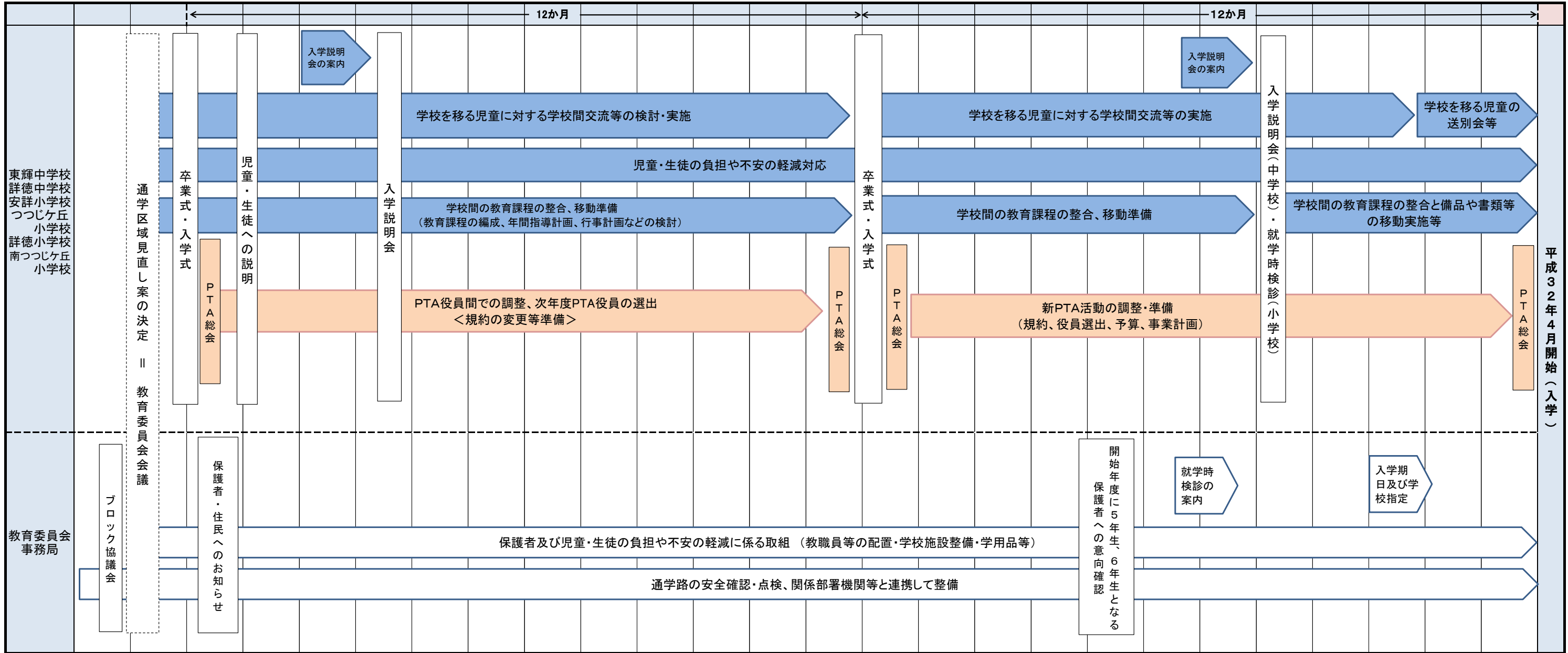
中学校	生徒数		小学校	児童数	
	H29 (実数)	H35 (推計)		H29 (実数)	H35 (推計)
詳徳	305	554	詳徳	244	263
			安詳	923	656
東輝	681	590	南つつじヶ丘	373	275
			つつじヶ丘	725	676

※何れも推計値には、宅地開発による転入等の社会増を見込んでいない。

対象地域



学校規模適正化事業 スケジュール(東輝・詳徳中学校ブロック)



亀岡市学校規模適正化基本方針（東輝・詳徳中ブロック）

背景

○市人口及び児童生徒数の推移

市人口は、市制施行からピークのH12まで増加を続けていたが、その後は減少し続けている。一方、児童生徒数はS60をピークに、その後は減少し続けている。なお、学校数はS63に南つつじヶ丘小学校が開校したのを最後に変化していない。

	市人口	小学生	中学生	児童生徒数	参考
S30	42,537人	4,435人	2,665人	7,100人	17小学校・6中学校
S40	43,335人	4,300人	2,559人	6,859人	14小学校・6中学校
S50	58,184人	5,128人	2,187人	7,315人	16小学校・6中学校
S60	76,207人	8,528人	4,073人	12,601人	17小学校・7中学校
H7	92,398人	7,660人	3,983人	11,643人	18小学校・8中学校
H17	93,996人	5,898人	2,822人	8,720人	
H27	91,259人	4,891人	2,554人	7,445人	
H32	88,214人	4,646人	2,443人	7,089人	

基本的な考え方

○適正な学校規模・配置

〔学級人数〕

クラブ活動等の集団活動ができる人数の確保という観点を重視して、適正な1学級の人数規模を次の通り設定しました。

	適正な1学級の人数規模
小学校	20～34人
中学校	

〔学級数〕

学校が教育効果を発揮できる適正な学校規模として、クラス替えができ、人間関係の固定化を防ぎ、多様な集団の形成が図れるという観点を重視して、適正な1学年の学級数を次の通り設定しました。

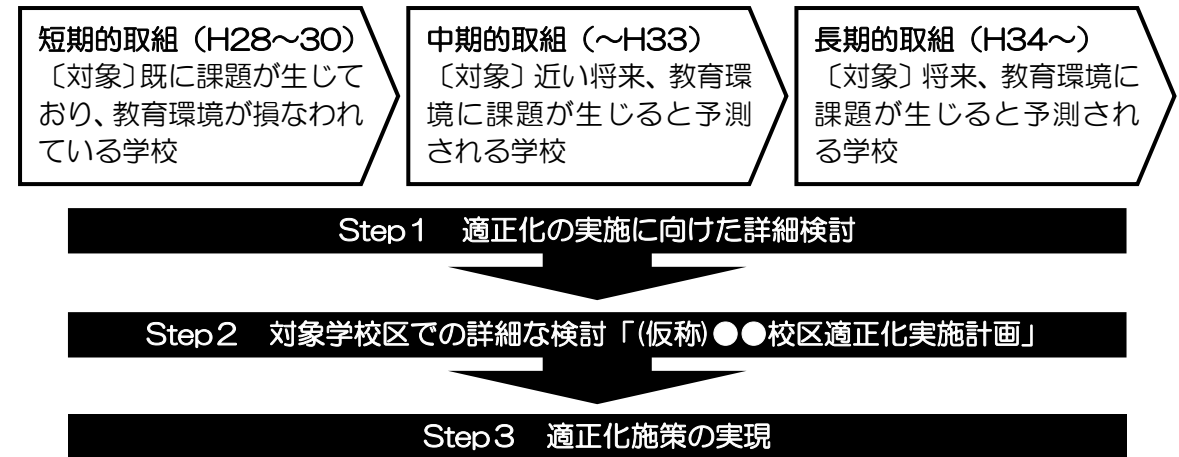
	準適正	適正な学校規模	準適正	適正な1学年の学級数
小学校	6学級～	12～18学級	～24学級	2～3学級
中学校				4～6学級

〔通学距離・通学時間〕

国の基準を準用しつつ、市域が広いという地理的な特性を勘案し、適正な通学距離、通学時間を次の通り設定しました。

	適正な通学距離	適正な通学時間
小学校	4 km以内	1 時間以内
中学校	6 km以内	

適正化への取り組みと今後の進め方



○地域別の検討組織での検討・協議

保護者、住民、学校関係者、教育委員会、行政等で組織する「(仮称)学校規模適正化地域別推進協議会」を設置して検討します。

地域別の方向性

○東輝中学校ブロック

〔課題〕

- ・つつじヶ丘小学校では、大幅に「適正な1学年の学級数」を超えている。
- ・東輝中学校では「適正な1学年の学級数」を超えている。
- ・南つつじヶ丘小学校では、児童数が減少してきており「適正な1学年の学級数」が維持できなくなる可能性が高まっている。
- ・つつじヶ丘小学校区には、南つつじヶ丘小学校への方が通学しやすい区域がある。
- ・安詳小学校の児童は、東輝中学校と詳徳中学校に分かれて進学しているため「小中一貫教育」を推進するためには支障がある。

〔方向性〕

- ・つつじヶ丘小学校と南つつじヶ丘小学校の児童数及び通学距離のバランスが取れるように取り組む。
- ・中学校区全体についても生徒数が過大とならないように対応を進める。

○詳徳中学校ブロック

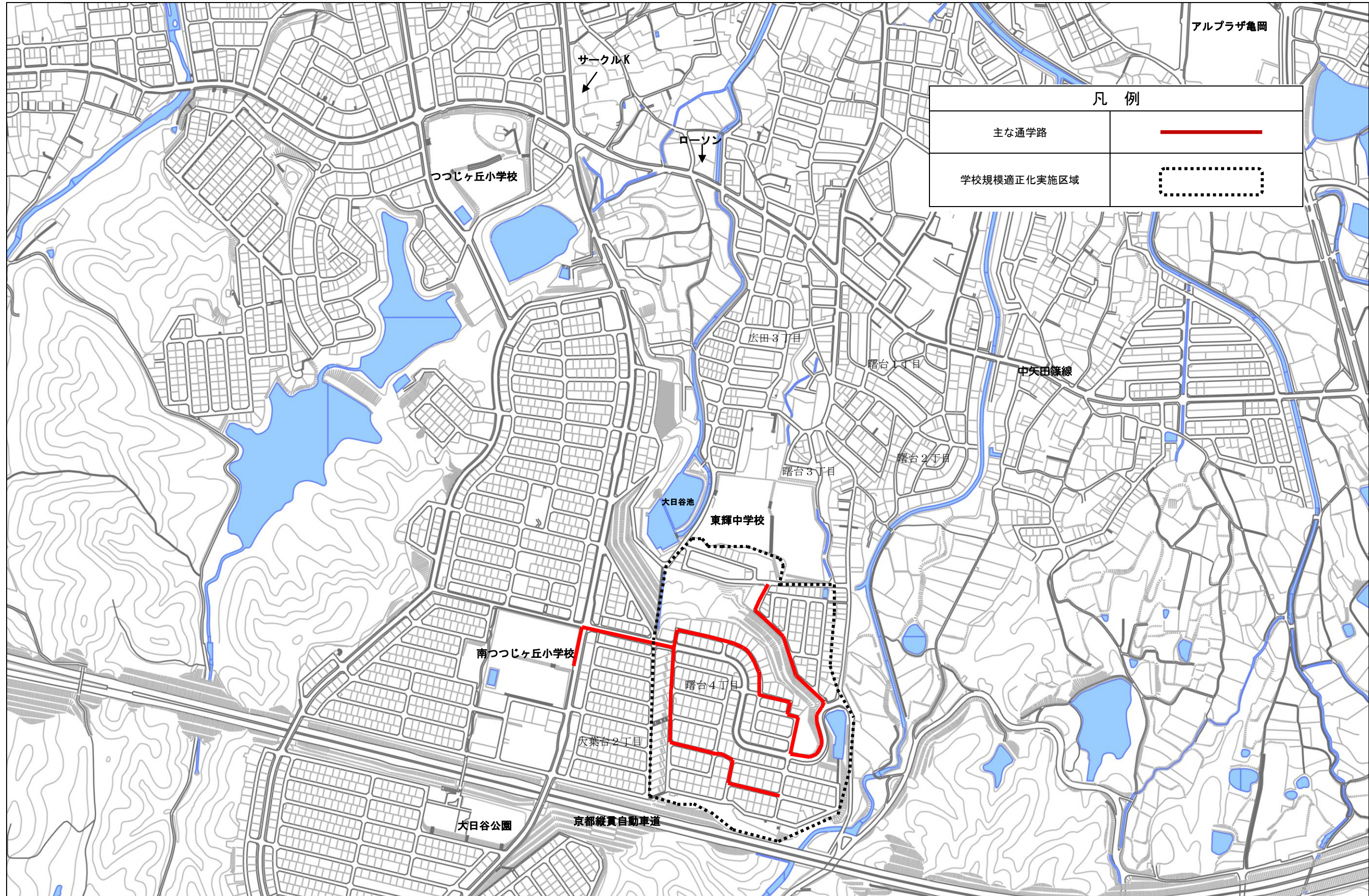
〔課題〕

- ・安詳小学校では、大幅に「適正な1学年の学級数」を超えている。
- ・詳徳小学校では、児童数が減少してきており「適正な1学年の学級数」が維持できなくなる可能性が高まっている。
- ・安詳小学校の児童は、詳徳中学校と東輝中学校に分かれて進学しているため「小中一貫教育」を推進するためには支障がある。

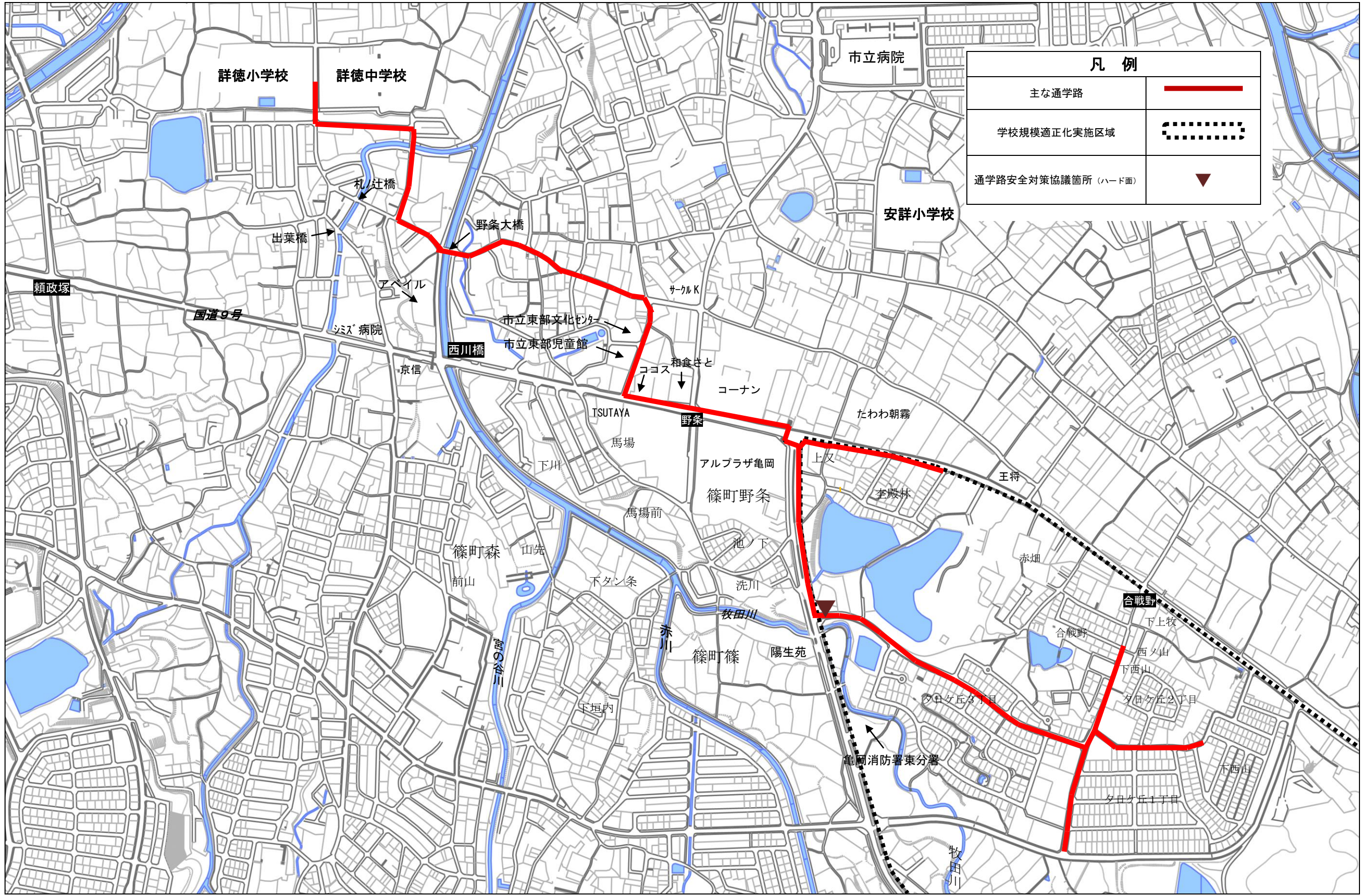
〔方向性〕

- ・安詳小学校と詳徳小学校の児童数のバランスが取れるように取り組む。
- ・中学校区全体についても生徒数が減少しないように対応を進める。

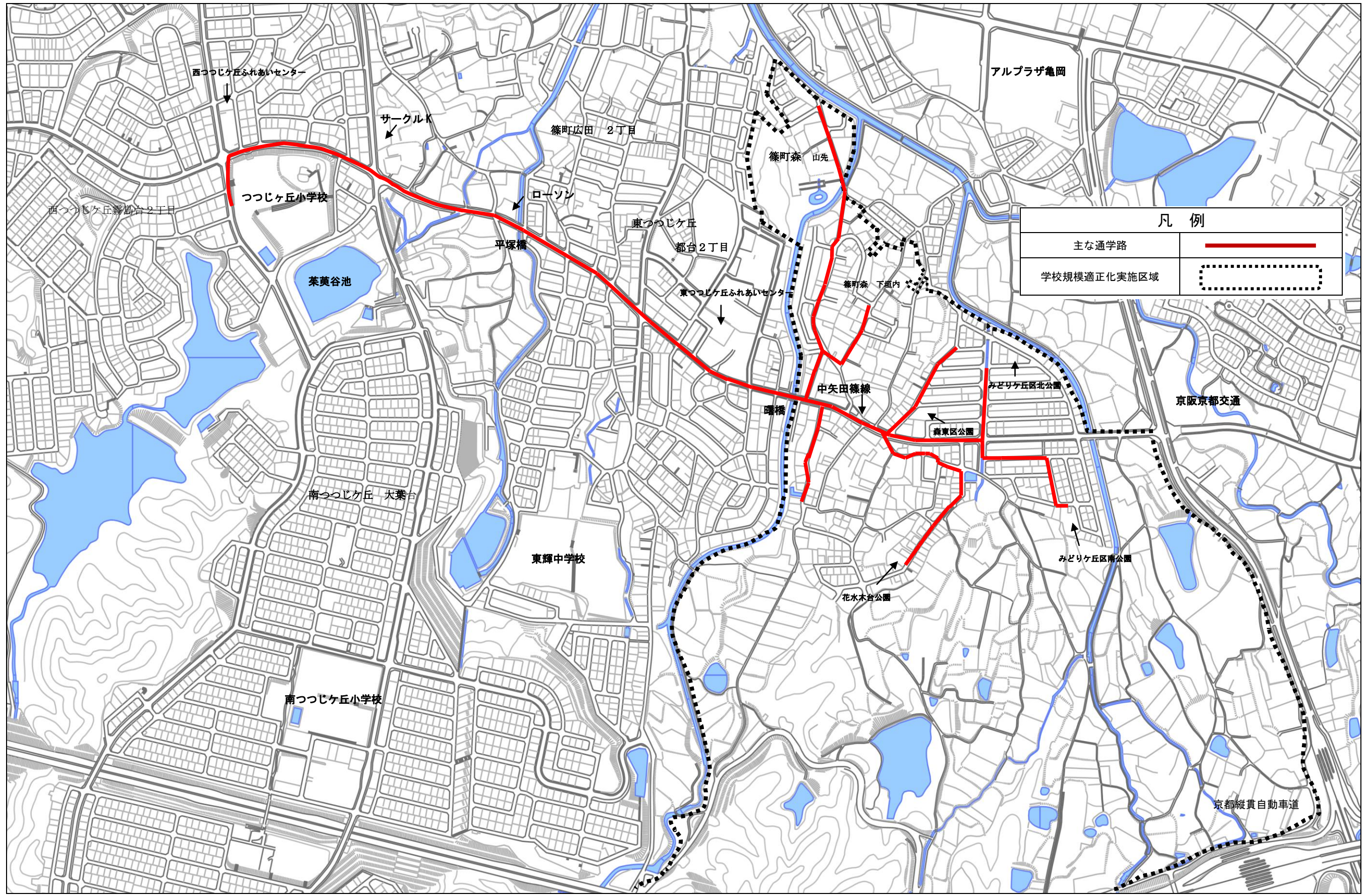
南つつじヶ丘小学校通学路（東つつじヶ丘曙台4丁目）（案）



詳徳中学校通学路【篠町篠区、フェスタ区、東夕日ヶ丘区、西夕日ヶ丘区等】(案)



つつじヶ丘小学校通学路【篠町森区、森東区、森宮区、みどりヶ丘区、花水木台区等】(案)



東つつじヶ丘曙台4丁目（7区の一部・8区）等

- なぜ、当初の案から変更して、7区と8区だけになったのか。
- 将来のために取り組むことは賛成であるが、今通学している子どものことを考えるべきではないか。
- 大人が6年間付添いできれば、1年生から通学できるのではないか。
- つつじ小へ通う際には、南つつじ小前を通っているのだから、南つつじ小の前の横断歩道まで一緒に通学して、新1年生だけ南つつじ小へ行けば、通学できるのではないか。
- 地域によって事情が違うのなら、地域によって実施方法を変えたらいいのではないか。
- 7区の説明会では全員反対していた。強制するのか。意見書を出したら変更してもらえるのか。

篠町篠（国道9号以南）、フェスタ区、東・西夕日ヶ丘区等

- 詳徳中へ進学することとなった場合、上の子の制服のお下がりには使えるのか。
- 不安軽減としての学校交流、先生の配置の具体的な内容を教えてほしい。
- きょうだいで学校が別れるが、行事が重なると参加できなくなる。

篠町野条、ひばりヶ丘、森・洗川区等

- 一部の地域の意見を取り上げて、対象地域から外したことが公平ではない。
- 通学区域の見直しをしなければ小中連携ができないのはなぜか。
- 具体的な教育のビジョンが示されていないため、学校を移ることにメリットが感じられない。データを使って、メリットを示してほしい。
- 英語教育のレベルはどこを目指すのか。
- 校区変更とは関係なしに小中連携をやってみればいいのか。放課後児童会の場所も自治会等と協力して学校外で工夫してやっていくべきである。
- 不安軽減に対する取組について、準備期間で決めるのではなく、今決めて大枠を示して欲しい。
- 適正化によっていろいろなことができるというが、具体的には何ができるのか。それを示してほしい。部活動のあり方を変えるチャンスではないか。
- 当初案の説明会では、対象地域を追加することはできても外すことはできないと答えておきながら、見晴地域など外した地域があるのではないか。外した理由は。
- これまでの意見が反映されていないので賛成できない。
- ブロック協議会に各地域が出した意見書などを資料として出して欲しい。

篠町森区、森東区、森宮区、みどりヶ丘区、花水木台区等

- 不安軽減に対する取組について情報の提供がないことが不安のもとになっている。こまめに情報提供をお願いしたい。そうすれば前向きになれる。
- キラリかめおかに月1回でも現況報告をして欲しい。今後他の中学校区でも通学区域の見直し等を実施する際にも進めやすくなるのではないか。
- 行事について学校間で重ならないように設定する際、雨で順延しても重ならないようにしてほしい。
- つつじ小のことを保護者も子どもも知らないのだから、学校説明会をして欲しい。
- 5・6年生のみ選択できるのではなく、各家庭で事情がことなるので、在校生は選択できるようにしてほしい。
- 通学は保護者が責任を持つことを条件に、平成31年度に入学する児童を先行してつつじ小へ入学させられないか。
- 実施決定までに通学路の危険箇所を把握したものを出したほうが、安心感が出てくる。
- 村山神社の前の道から中矢田篠線までの道は狭いので、対策をしてほしい。
- なぜ、現時点での教育委員会が把握している危険箇所を示せないのか。
- 3月末に実施決定するのであれば、同時進行で通学路の安全対策について（子どもを通じてアンケートやホームページ等でも）希望を聞いたかどうか。具体案を3月までに周知してほしい。そうすれば少しでも整備が進められるのではないか。

東輝・詳徳中ブロックPTA役員説明会

- きょうだいで別れて通学することとなった場合、PTA会費は上の子を基準に世帯単位で徴収しているため、下の子の学校は会費を頂けず、会員が増えても会費が増えないことになるので2年間限定でPTA会費の補てんをしてほしい。
- PTAの運営する事業に対して助成してもらうのもひとつの案としてお願いしたい。平成32年4月と示されたことは大きい。対象地区（移ってくる）の児童の情報がPTAにも入ってくるようにしてほしい。
- 2年間は従来校に通う児童にも見守りは必要で、通学路の見守りを今よりも増やしてほしい。ただし、先生の負担が増えないようにしてほしい。自治会や老人会にお願いしても足りないのではないかと。2年間は、市で雇用して立ってもらう必要があるのではないかと。
- 当初案で対象としていた地域のうち最終案で外れた地域には、対象外であることを知らせたのか。保護者には、知らせてもらっていないので怒っている人もいる。
- どこまで議論が進んでいるのかが分からないという不満が保護者にはある。決まったことなどをいろいろな媒体を使って周知していただくと、前に進みやすくなるのではないかと。ブロック協議会では、住民説明会で出た意見を集約して出してほしい。